

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本ビジネス公務員専門学校
設置者名	学校法人 エイシンカレッジ

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	公務員専攻科 (2年制)	夜・通信	405.0時間	160時間以上	—
	公務員科 (1年制)	夜・通信	124.2時間	80時間以上	—
	医療ビジネス科 (2年制)	夜・通信	671.4時間	160時間以上	—
	医療秘書科 (2年制)	夜・通信	655.2時間	160時間以上	—
	経理ビジネス科 (2年制)	夜・通信	1407.6時間	160時間以上	—
	総合ビジネス科 (2年制)	夜・通信	948.6時間	160時間以上	—
工業専門課程	情報ビジネス科 (2年制)	夜・通信	747.8時間	160時間以上	—
(備考) 募集停止学科 ビジネスライセンス科 (1年制)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページによる公表（「シラバス（一覧表+実務経験者授業総時数表示）」） https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 該当なし —(困難である理由)—

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本ビジネス公務員専門学校
設置者名	学校法人 エイシンカレッジ

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページによる公表

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info13-4.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人 英智学院 理事長	4年 2017.1.8 ～2021.1.7	コンプライアンス
非常勤	株式会社 北越印刷 代表取締役会長	4年 2017.1.8 ～2021.1.7	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本ビジネス公務員専門学校
設置者名	学校法人 エイシンカレッジ

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

1. シラバスの作成過程について

当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し、次年度の授業計画(シラバス)を決定するものとする。

2. シラバスの作成・公表時期について

授業計画(シラバス)は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。

(1) 担当教員 (2) 授業形態 (3) 概要 (4) 授業の到達目標

(5) 授業方法・授業上注意 (6) 成績評価の方法と基準

(7) 使用テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画

※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf

なお、シラバスの公表時期は年度更新とし、新年度開始前とする。

授業計画書の公表方法 <https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/>
('シラバス(一覧表+実務経験者授業総時数表示)')

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

本学の成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目的学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準	配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)	10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)	10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)	60点
発表 (図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)	10点
報告書 (内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	10点

合計	100点
詳細は、下記 URL（「成績評価基準」） https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 <small>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</small> 本学では下記に示す客観的な指標（GPA）を設定し、成績評価を実施している。	
①GPAの設定について <ul style="list-style-type: none"> ・成績は5段階（秀・優・良・可・不可）で評価し、それぞれの評価に対しグレードポイント（4・3・2・1・0）を付与する。 ・各科目のグレードポイントに各科目の授業時間数をかけた加重平均によりGPAを算出する。 ②GPA算出の計算式 $\frac{(\text{GPA 対象科目の総時数} \times \text{グレードポイント}) \text{ の総和}}{\text{GPA 対象科目の履修合計総授業時間数}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info08.pdf <small>（「GDAと成績分布表記」）</small>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 <small>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</small> <卒業の認定に関する方針※全学科対象> 本学では下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業を認定するものとする。	
①実践的かつ専門的な知識や技能、論理的思考、ビジネスマナーなど各学科のディプロマポリシーに掲げる能力を身につけた者。 <small>※各学科のディプロマポリシーの詳細は「各学科のポリシー」</small> https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/	
②以下の卒業要件を満たした者。	
(1) 卒業条件検定を取得していること。 <small>※検定の一覧は下記 URL を参照。</small>	
(2) 年間の出席率が総授業時間数の90%以上であること。	
(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。 <small>※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生については修了を認定する場合がある。</small> <small>※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。</small>	
<卒業認定の実施状況> 認定基準を踏まえ、卒業認定会議（校長・副校長・教務主任・学科長・教員）を経て卒業を認定するものとする。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf <small>（「卒業・進級条件と専門士」）</small>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本ビジネス公務員専門学校
設置者名	学校法人 エイシンカレッジ

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info13-1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info13-2.pdf
財産目録	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info13-3.pdf
事業報告書	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info14.pdf
監事による監査報告（書）	https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info13-6.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務		商業実務 専門課程	公務員専攻科	○	—
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
		講義 演習 実習 実験 実技	777.6 単位時間	550.8 単位時間	392.0 単位時間
2年	昼間	1 7 2 0 . 4 単位時間	1 7 2 0 . 4 単位時間		
生徒総定員数		生徒実員 うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人		31人 0人	3人	0人	3人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
1. シラバスの作成過程について 当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。
2. シラバスの作成・公表時期について シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。 (1) 担当教員 (2) 授業形態 (3) 概要 (4) 授業の到達目標 (5) 授業方法・授業上注意 (6) 成績評価の方法と基準 (7) テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画 ※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」 https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。 ※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表+実務経験者 授業総時数表示）」 https://jpas-nagaoka.jp/diclosure/syllabus/

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準		配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)		10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)		10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)		60点
発表 (図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)		10点
報告書		10点

(内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	
合計	100点

詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）
https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf

卒業・進級の認定基準

下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。

①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。

※ディプロマポリシーの詳細は「公務員専攻科のポリシー」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-7.pdf

②以下の卒業要件を満たした者。

(1) 卒業・進級条件検定を取得していること。

※検定の一覧は下記 URL を参照。

(2) 年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。

(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。

※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生については修了を認定する場合がある。

※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。

卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf

学修支援等

学習への不安をなくし学生が自己管理の基、関連実務や資格に関する知識・技術・技能等を習得できる学修支援制度を構成する。

・担任制の導入 ・授業時間外の個別指導 ・成績不振者への補習および保護者との連携 ・成績優秀者への奨励や表彰 ・能動的な学習の導入（アクティブラーニング等） ・授業評価（アンケート）の実施 ・就学機会の提供
 （学内奨学生制度など） ほか

詳細は下記 URL（「学習支援等」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info11.pdf

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数 H31.3卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0 %)	15人 (88.3 %)	2人 (11.7 %)

（主な就職、業界等）

長岡市役所、小千谷市役所、上越市役所、新潟県学校事務、国家公務員、国家税務ほか

（就職指導内容）

・公務員職種説明会 ・個別ガイダンス ・マナー指導 ・面接指導（公務員、民間）
 ・履歴書作成指導 ・キャリア教育（社会的・職業的自立、自己実現への導き）

(主な学修成果（資格・検定等）)
・全経簿記検定 ・ビジネス文書検定 ・日商PC検定（文書作成）
・日商PC検定（データ活用） ・MOS検定（Word） ・MOS検定（Excel）
・MOS検定（PowerPoint） ・計算実務検定 ・電卓検定

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 H30年度実績		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	5人	13.5%
(中途退学の主な理由)		
進路変更（就職を希望）、授業に興味がわからない		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
定期ガイダンス、個別ガイダンス、保護者との連携による指導、三者面談、補習授業、学費納入に関する相談など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	公務員科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	839.2 単位時間	141.0 単位時間	550.8 単位時間	147.4 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		2人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
1. シラバスの作成過程について	当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。
2. シラバスの作成・公表時期について	シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。 (1) 担当教員 (2) 授業形態 (3) 概要 (4) 授業の到達目標 (5) 授業方法・授業上注意 (6) 成績評価の方法と基準 (7) テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画 ※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」 https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。

※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表+実務経験者授業総時数表示）」
<https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/>

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準		配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)		10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)		10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)		60点
発表		10点

	(図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)										
報告書		10点									
	(内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)										
合計		100点									
<p>詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）</p> <p>https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf</p>											
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。</p> <p>①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。 ※ディプロマポリシーの詳細は「公務員科のポリシー」 https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-6.pdf</p> <p>②以下の卒業要件を満たした者。</p> <p>(1) 卒業・進級条件検定を取得していること。 ※検定の一覧は下記 URL を参照。</p> <p>(2) 年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。</p> <p>(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。 ※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生については修了を認定する場合がある。 ※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。</p>											
<p>卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」）</p> <p>https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf</p>											
<p>学修支援等</p> <p>学習への不安をなくし学生が自己管理の基、関連実務や資格に関する知識・技術・技能等を習得できる学修支援制度を構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任制の導入 ・授業時間外の個別指導 ・成績不振者への補習および保護者との連携 ・成績優秀者への奨励や表彰 ・能動的な学習の導入（アクティブラーニング等） ・授業評価（アンケート）の実施 ・就学機会の提供（学内奨学生制度など） ほか 											
<p>詳細は下記 URL（「学習支援等」）</p> <p>https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info11.pdf</p>											
<p>卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>卒業者数 H31.3 卒</th> <th>進学者数</th> <th>就職者数 (自営業を含む。)</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6人 (100%)</td> <td>0人 (0 %)</td> <td>6人 (100 %)</td> <td>0人 (0 %)</td> </tr> </tbody> </table>				卒業者数 H31.3 卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	6人 (100%)	0人 (0 %)	6人 (100 %)	0人 (0 %)
卒業者数 H31.3 卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他								
6人 (100%)	0人 (0 %)	6人 (100 %)	0人 (0 %)								
<p>(主な就職、業界等) 長岡市役所、長岡市消防、上越市役所 ほか</p>											

(就職指導内容)
・公務員職種説明会 ・個別ガイダンス ・マナー指導 ・面接指導（公務員、民間）
・履歴書作成指導 ・キャリア教育（社会的・職業的自立、自己実現への導き）
(主な学修成果（資格・検定等）)
・ビジネス文書検定 ・MOS 検定 (Word) ・MOS 検定 (Excel)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 H30 年度実績		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
――		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
定期ガイダンス、個別ガイダンス、保護者との連携による指導、三者面談、補習授業、学費納入に関する相談など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務 専門課程	医療ビジネス科	○	—
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		
		講義	演習	実習
2年	昼間	792.2 単位時間	458.4 単位時間	515.2 単位時間
		1 7 6 5 . 8 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員数		専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	9 人	0 人	2 人	0 人
		1 7 6 5 . 8 単位時間		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
1. シラバスの作成過程について	当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。
2. シラバスの作成・公表時期について	シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。 (1) 担当教員 (2) 授業形態 (3) 概要 (4) 授業の到達目標 (5) 授業方法・授業上注意 (6) 成績評価の方法と基準 (7) テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画 ※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」 https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf

なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。

※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表＋実務経験者授業総時数表示）」

<https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/>

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準		配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)		10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)		10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)		60点
発表		10点

(図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)	
報告書 (内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	10点
合計	100点

詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）
https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf

卒業・進級の認定基準

下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。

①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。

※ディプロマポリシーの詳細は「医療ビジネス科のポリシー」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-2.pdf

②以下の卒業要件を満たした者。

(1) 卒業・進級条件検定を取得していること。

※検定の一覧は下記 URL を参照。

(2) 年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。

(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。

※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生については修了を認定する場合がある。

※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。

卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf

学修支援等

学習への不安をなくし学生が自己管理の基、関連実務や資格に関する知識・技術・技能等を習得できる学修支援制度を構成する。

・担任制の導入 ・授業時間外の個別指導 ・成績不振者への補習および保護者との連携 ・成績優秀者への奨励や表彰 ・能動的な学習の導入（アクティブラーニング等） ・授業評価（アンケート）の実施 ・就学機会の提供
 （学内奨学生制度など） ほか

詳細は下記 URL（「学習支援等」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info11.pdf

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数 H31. 3 卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0 %)	0人 (0 %)	0人 (0 %)	0人 (0 %)

(主な就職、業界等)

病院、診療所（医科）、調剤薬局 ほか

(就職指導内容)
・職業ガイダンス　・個別ガイダンス　・ビジネスマナー指導　・面接指導　・履歴書作成指導　・キャリア教育（社会的・職業的自立、自己実現への導き）
(主な学修成果（資格・検定等）)
・診療報酬請求事務能力認定試験　・医療事務管理士技能認定試験（医科） ・調剤事務管理士技能認定試験　・介護事務管理士技能認定試験　・医師事務作業補助者検定試験　・医事コンピュータ技能検定　・電子カルテ実技検定　・秘書検定 ・日商簿記検定　・MOS 検定（Word）　・MOS 検定（Excel） ・電卓検定 他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 H30年度実績		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期ガイダンス、個別ガイダンス、保護者との連携による指導、三者面談、補習授業、学費納入に関する相談など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
商業実務		商業実務 専門課程	医療秘書科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類		
				講義	演習	
2年	昼間	1799.8 単位時間		793.8 単位時間	571.8 単位時間	
				434.2 単位時間	0 単位時間	
		1799.8 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	
60人		43人	0人	3人	0人	
				総教員数		
		2人				

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
1・シラバスの作成過程について	当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。
2・シラバスの作成・公表時期について	シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。 (1)担当教員 (2)授業形態 (3)概要 (4)授業の到達目標 (5)授業方法・授業上注意 (6)成績評価の方法と基準 (7)テキスト (8)教材・参考文献・図書等 (9)授業計画

※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf

なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。

※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表+実務経験者授業総時数表示）」

<https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/>

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準		配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)		10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)		10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)		60点

発表 (図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)	10点
報告書 (内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	10点
合計	100点

詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）
https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf

卒業・進級の認定基準
<p>下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。</p> <p>①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。 ※ディプロマポリシーの詳細は「医療秘書科のポリシー」 https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-1.pdf</p> <p>②以下の卒業要件を満たした者。</p> <p>(1) 卒業・進級条件検定を取得していること。 ※検定の一覧は下記 URL を参照。</p> <p>(2) 年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。</p> <p>(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。 ※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生について修了を認定する場合がある。 ※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。</p> <p>卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」） https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf</p>

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数 H31.3卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0 %)	20人 (100 %)	0人 (0 %)
(主な就職、業界等) 病院、診療所（医科、歯科）、調剤薬局 ほか			

(就職指導内容)
・公務員職種説明会 ・個別ガイダンス ・マナー指導 ・面接指導（公務員、民間）
・履歴書作成指導 ・キャリア教育（社会的・職業的自立、自己実現への導き）
(主な学修成果（資格・検定等）)
・診療報酬請求事務能力認定試験 ・医療事務管理士技能認定試験（医科）
・医療事務管理士技能認定試験（歯科） ・調剤事務管理士技能認定試験
・介護事務管理士技能認定試験 ・医師事務作業補助者検定試験 ・医事コンピュータ技能検定 ・電子カルテ実技検定 ・秘書検定 ・MOS 検定（Word）
・MOS 検定（Excel） ・電卓検定 他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 H30 年度実績						
年度当初在学者数		年度の途中における退学者の数		中退率		
43人		4人		9.3%		
(中途退学の主な理由)						
人間関係がうまく保てない、その他の理由						
(中退防止・中退者支援のための取組)						
定期ガイダンス、個別ガイダンス、保護者との連携による指導、第三者面談、補習授業、学費納入に関する相談など						

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	経理ビジネス科	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2136.8 単位時間	1087.0 単位時間	908.8 単位時間	108.6 単位時間	0 単位時間	32.4 単位時間
			2136.8 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	1人	0人	1人	0人	1人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
1. シラバスの作成過程について
当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。
2. シラバスの作成・公表時期について
シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。 (1)担当教員 (2)授業形態 (3)概要 (4)授業の到達目標 (5)授業方法・授業上注意 (6)成績評価の方法と基準

(7) テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画

※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf

なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。

※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表＋実務経験者授業総時数表示）」

<https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/>

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準	配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)	10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)	10点

成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)	60点
発表 (図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)	10点
報告書 (内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	10点
合計	100点

詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）
https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf

卒業・進級の認定基準
<p>下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。</p> <p>①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。 ※ディプロマポリシーの詳細は「経理ビジネス科のポリシー」 https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-1.pdf</p> <p>②以下の卒業要件を満たした者。</p> <p>(1) 卒業・進級条件検定を取得していること。 ※検定の一覧は下記 URL を参照。</p> <p>(2) 年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。</p> <p>(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。 ※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生については修了を認定する場合がある。 ※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。</p> <p>卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」） https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf</p>

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数 H31.3 卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

1人 (100%)	0人 (0 %)	1人 (1 0 0 %)	0人 (0 %)
(主な就職、業界等) 一般企業（事務職、販売職）、金融機関ほか			
(就職指導内容) ・職業ガイダンス ・個別ガイダンス ・ビジネスマナー指導 ・面接指導 ・履歴書作成指導 ・キャリア教育（社会的・職業的自立、自己実現への導き）			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・日本商工会議所 簿記検定1級 ・全国経理教育協会 簿記能力検定1級 ・ファイナンシャル・プランニング技能検定 ・全国経理教育協会 法人税法 所得税法 ・全国経理教育協会 コンピュータ会計 ・秘書検定3級 ・日本商工会議所 販売士検定 ・MOS Word ・MOS Excel ・MOS Access ・MOS Power Point ・ビジネス文書検定3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 H30年度実績		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な面談の実施 ・就学状況に応じたカウンセリングと保護者との情報共有、面談の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
商業実務		商業実務 専門課程	総合ビジネス科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	
2年	昼間	1804.7 単位時間	725.8 単位時間	923.4 単位時間	123.1 単位時間	
			1804.7 単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	
40人		35人	0人	3人	1人	
					4人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)					
1. シラバスの作成過程について 当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目の教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。					

2. シラバスの作成・公表時期について

シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。

(1) 担当教員 (2) 授業形態 (3) 概要 (4) 授業の到達目標

(5) 授業方法・授業上注意 (6) 成績評価の方法と基準

(7) テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画

※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf

なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。

※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表+実務経験者授業総時数表示）」

<https://jpas-nagaoka.jp/disclosure/syllabus/>

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準	配点
計画性	10点

(順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)	
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)	10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)	60点
発表 (図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)	10点
報告書 (内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	10点
合計	100点

詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf

卒業・進級の認定基準

下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。

①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。

※ディプロマポリシーの詳細は「総合ビジネス科のポリシー」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-3.pdf

②以下の卒業要件を満たした者。

(1) 卒業・進級条件検定を取得していること。

※検定の一覧は下記 URL を参照。

(2) 年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。

(3) 成績評価がすべて“可”以上であること。

※上記(1)の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生については修了を認定する場合がある。

※上記(3)の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。

卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf

学修支援等

学習への不安をなくし学生が自己管理の基、関連実務や資格に関する知識・技術・技能等を習得できる学修支援制度を構成する。

・担任制の導入　　・授業時間外の個別指導　　・成績不振者への補習および保護者との連携　　・成績優秀者への奨励や表彰　　・能動的な学習の導入（アクティブラーニング等）　　・授業評価（アンケート）の実施　　・就学機会の提供（学内奨学生制度など）　　ほか

詳細は下記 URL（「学習支援等」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info11.pdf

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数 H31.3卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0 %)	13人 (86.7 %)	2人 (13.3 %)
(主な就職、業界等) 一般企業（事務職、販売職）、金融機関ほか			
(就職指導内容) ・職業ガイダンス ・個別ガイダンス ・ビジネスマナー指導 ・面接指導 ・履歴書作成指導 ・キャリア教育（社会的・職業的自立、自己実現への導き）			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・日本商工会議所簿記検定2級・全国経理教育協会簿記能力検定1級 ・秘書検定・日本商工会議所販売士検定・MOS Word・MOS Excel ・MOS Access・MOS Power Point・ビジネス文書検定 ・ファイナンシャル・プランニング技能検定他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 H30年度実績		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	1人	3.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更（就職を希望）		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な面談の実施 ・就学状況に応じたカウンセリングと保護者との情報共有、面談の実施		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報ビジネス科		○		—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	
2年	昼間	1994.2 単位時間		743.6 単位時間	740.3 単位時間	492.5 単位時間	0 単位時間	
				1994.2 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人		17人	0人	3人	0人	3人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

1. シラバスの作成過程について

当該年度の教育課程終了後、当年度の教育課程を振り返り授業科目の概要および各科目的教育内容に関して改善や変更の要否を検討し次年度の授業計画（シラバス）を決定するものとする。

2. シラバスの作成・公表時期について

シラバス（授業計画）は科目の担当教員が作成し、学生の学習到達および資格取得に資するよう以下の内容について記載することとする。

(1) 担当教員 (2) 授業形態 (3) 概要 (4) 授業の到達目標

(5) 授業方法・授業上注意 (6) 成績評価の方法と基準

(7) テキスト (8) 教材・参考文献・図書等 (9) 授業計画

※作成に関する詳細は、「シラバスのガイドライン」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info06.pdf

なお、シラバスは年度更新とし、公開は新年度開始前とする。

※授業計画（シラバス）の詳細は、「シラバス（一覧表＋実務経験者授業総時数表示）」

<https://jpas-nagaoka.jp/dDisclosure/syllabus/>

成績評価の基準・方法

成績評価は、予め公表されている授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」に基づき各科目の学修成果を考查点100点、その他100点（日常の学習態度、確認・単元テスト、出席率、ホームワークの完成度や出席状況、検定取得状況など科目によって異なる）とする総合200点満点を標準に、厳格かつ適正に評価するものとする。

なお、レポート等および成果物における評価基準に関しては以下の基準とする。

・レポート等の評価基準

評価基準		配点
表記・文体		
(1)	誤字・脱字、文字の表記・使用は適切か	10点
(2)	助詞・接続詞、句読点の位置は適切か	5点
(3)	字数は適切か	5点
文書構成・論理展開		
(4)	筋道が立ち論理的に表現されているか	20点
(5)	文章の構成・段落の置き方は適切か	10点
(6)	文章が簡潔で明瞭か	10点
内容・創造性		
(7)	設問に対して適切に答えているか	20点
(8)	創造性・独自性はあるか	20点
合計		100点

・成果物の評価基準

評価基準	配点
計画性 (順序立てて計画されているか。目的、内容が具体的に計画されているか。)	10点
準備・意欲 (計画通りに進んでいるか。調査・実験・製作のプロセスが効果的か。)	10点
成果物 (完成したか。計画どおりのものができたか。)	60点
発表 (図・表が適切であり、説明が分かりやすく、明瞭に表現できていたか。)	10点
報告書 (内容が論理的か。文章の用語・文法、参考文献等が適切に示されているか。)	10点
合計	100点

詳細は、下記 URL（「成績評価基準」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info07.pdf

卒業・進級の認定基準

下記①②の要件を共に満たした者に対し卒業および進級を認定するものとする。

①学科のディプロマポリシーで掲げた能力を身につけた者。

※ディプロマポリシーの詳細は「情報ビジネス科のポリシー」

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info03-5.pdf

②以下の卒業要件を満たした者。

（1）卒業・進級条件検定を取得していること。

※検定の一覧は下記 URL を参照。

（2）年間の出席率が総授業時間数の 90 %以上であること。

（3）成績評価がすべて“可”以上であること。

※上記（1）の条件のみを満たせずに留年認定を受け、その結果退学する学生について修了を認定する場合がある。

※上記（3）の条件を満たせない者に対してのみ、事情が考慮された場合、卒業認定試験を実施する場合がある。

卒業条件検定の詳細は下記 URL（「卒業進級要件と専門士」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info09.pdf

学修支援等

学習への不安をなくし学生が自己管理の基、関連実務や資格に関する知識・技術・技能等を習得できる学修支援制度を構成する。

・担任制の導入　　・授業時間外の個別指導　　・成績不振者への補習および保護者との連携　　・成績優秀者への奨励や表彰　　・能動的な学習の導入（アクティブラーニング等）　　・授業評価（アンケート）の実施　　・就学機会の提供（学内奨学生制度など）　ほか

詳細は下記 URL（「学習支援等」）

https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info11.pdf

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数 H31.3 卒	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	0人 (0 %)	3人 (75.0 %)	1人 (25.0 %)
(主な就職、業界等) S I e r (システムエンジニア、プログラマー)、印刷・出版(デザイナー)、一般企業(システムエンジニア、E C、事務職)ほか			
(就職指導内容) ・公務員職種説明会 　・個別ガイダンス 　・マナー指導 　・面接指導(公務員、民間) ・履歴書作成指導 　・キャリア教育(社会的・職業的自立、自己実現への導き)			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・基本情報技術者試験 　・W e b デザイナー検定ベーシック 　・C G デザイナー検定ベーシック 　・ホームページ作成検定 　・日本語ワープロ検定 　・日商プログラミング検定 　・MOS W o r d 　・MOS E x c e l 　・MOS A c c e s s 　・MOS P o w e r P o i n t			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 H30 年度実績		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	1人	9.1%
(中途退学の主な理由) 病気けがなど		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な面談の実施 ・就学状況に応じたカウンセリングと保護者との情報共有、面談の実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
公務員専攻科	100,000 円	400,000 円	440,000 円	
公務員科	100,000 円	400,000 円	440,000 円	
医療ビジネス科	100,000 円	400,000 円	390,000 円	
医療秘書科	100,000 円	400,000 円	390,000 円	
経理ビジネス科	100,000 円	400,000 円	420,000 円	
総合ビジネス科	100,000 円	400,000 円	420,000 円	
情報ビジネス科	100,000 円	400,000 円	440,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info12-1.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<基本方針> 学校関係者評価は自己評価の結果を本学の関係者により組織した学校関係者評価評議会に報告し意見を聞き、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。 また、学科長と学科教員はカリキュラムの原案を作成するにあたり、本委員会での意見を基に専門的かつ実践的な教育課程編成を決定していくものとする。		
<主な評価項目> ①教育理念・目標 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果 ⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生の受入れ募集 ⑧財務 ⑨法令等の遵守 ⑩社会貢献・地域貢献		
<評議会の構成> 次に掲げる区分のいずれかから校長が委嘱する委員2名以上により構成する。 (1) 関連業界等関係者 (企業等委員) (2) 卒業生 (3) 教育に関し知見を有する者 (4) その他校長が必要と認める者 なお、委員の任期は1年とし、再任を妨げないものとする。		
学校関係者評議会の委員		
所属	任期	種別
田代 克郎 (アートビジネスサプライ株式会社)	1年 (平成31年4月1日～平成32年3月31日)	企業等委員
細貝 伸行 (株式会社エイエイピー 新潟支店)	1年 (平成31年4月1日～平成32年3月31日)	企業等委員
学校関係者評議会結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://jpas-nagaoka.jp/pdf/edu_info12-2.pdf		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://jpas-nagaoka.jp/>